

## 2013 産業技術大学院大学 PBLプロジェクト成果発表会の開催

2月10日(日) 9時30分～ 於:東京国際フォーラム ホールB5

—明日のIT、イノベーションデザインのシーズを発表—

産業技術大学院大学は、創立以来第6回目となる「2013 産業技術大学院大学 PBL プロジェクト成果発表会」を東京国際フォーラムで開催します。

『PBL=Project Based Learning (プロジェクトを完成させる過程を通じたチーム学修)』とは、本学が IT 分野やイノベーションデザイン分野で、即戦力として活躍できる人材の育成を目指して取り入れている教育手法のことです。毎年1回、最終成果発表会として一般の方をはじめ産業界・教育界等からの来場者 200 人以上を前に学生によるプレゼンテーションを行います。

今年度は、『脳波によって音楽体験を創造する製品&サービス「感性選曲」』、『ロボットを利用したバーチャルキャンパス体験サービス』、といった IT やイノベーションデザインに関する計 20 テーマ(詳細別紙参照)の発表を行います。この発表会を通じて、PBL 型教育から生まれた明日のシーズを産業界に提供いたします。専門職大学院ならではの先端的な取組成果をご覧ください。ぜひ御来場ください。

### ○ 開催概要

- ◆開催日時 平成25年2月10日(日) 9時30分～18時15分
- ◆開催場所 東京国際フォーラム ホールB5 (千代田区丸の内3-5-1)  
【事前申込不要、入退場自由、入場無料】
- ◆発表方法 発表会場では、情報アーキテクチャ専攻9チームと創造技術専攻11チームの学生が、それぞれのPBLの成果について、30分間にわたり、プレゼンテーションを行うとともに、御来場の皆様と質疑応答を行います。また、発表会場のほか、ロビーではパネル展示を行い、学生や担当教員が御来場いただいた皆様に直接説明を行います。

<昨年度の発表会及びパネル展示の様子>



## 2013 産業技術大学院大学 PBL プロジェクト成果発表会 プログラム

【開催日時】平成25年2月10日(日)9時30分～18時15分

【開催場所】東京国際フォーラム ホールB5(千代田区丸の内3-5-1)

【情報アーキテクチャ専攻テーマ一覧】		【創造技術専攻テーマ一覧】	
嶋田 PT※	SNS 画像投稿時のプライバシー侵害要因の類型化とサービス検討	吉田 PT	産業の特性を理解する手法の開発～真空産業の特性の把握～
秋口 PT	次世代GUIプラットフォームJavaFXのフレームワーク開発	川田 PT	レジリエントな生活を志向する「もちつもたれつサービス」の提案
成田 PT	NUI を利用したオンラインドキュメントサービスの提案	村越 PT	ライフデザイン支援ツールの開発
瀬戸 PT	プライバシー影響評価の医療分野への適用と実施環境整備	管野 PT	小型ポンプの開発と幅広い分野での活用の提案
戸沢 PT	情報戦略と業務改革(BPR)提案	舘野 PT	生活をアクティブにする歩行・走行支援ツールの提案と開発
小山 PT※	企画から公開・普及までの効率的ソフトウェア開発の実践	越水 PT※	脳波によって音楽体験を創造する製品&サービス「感性選曲」
中鉢 PT	スクラム型ソフトウェア開発のマネジメント方法論と教育	橋本 PT	未来日中一克服文化和語言的差異—国際技術移転の在り方とは？
加藤 PT※	ロボットを利用したバーチャルキャンパス体験サービス	福田 PT※	未来都市における次世代型飛行船2030
酒森 PT	模擬プロジェクトの実践と事例研究によるPMコンピテンシー獲得	國澤 PT※	地域活性化に繋がる商店街のためのデザインソリューションの開発
		小山 PT	2025年を想定した情報カプセル型パーソナルモビリティの提案
		前田 PT	APENモデルHiPESのアジア展開

【以下、代表例として上記一覧の※プロジェクトチームの取組概要】

## 加藤 PT 【情報アーキテクチャ専攻】

「ロボットを利用したバーチャルキャンパス体験サービス」

近年、クラウド環境を利用した多くのロボットサービスプラットフォームが提案されるようになってきた。このような背景の下、我々は、遠隔地の構内に設置したロボットをインターネット経由で操作することにより利用者が仮想的にオープンキャンパスを体験できる、Remote Open Campus System (ROCS) を提案する。ROCSは、ロールプレイングゲームの知見を利用することにより、仮想化サービスと実世界の融合を実現する。

## 越水 PT 【創造技術専攻】

「脳波によって音楽体験を創造する製品&amp;サービス「感性選曲」」

本プロジェクトでは、脳波を利用した新しい音楽体験をデザインした。音楽を聴いたときの脳波の情報を楽曲と関連付けて格納し「脳内音楽マップ」を作成する。これをもとにユーザーの脳波傾向に応じて楽曲が自動選曲される。これらは「感性選曲」と呼ばれるスマホアプリで実現される。このシステムで「選曲により高い心理的効果を得る」といった顧客価値を提供したい。また、脳波ヘッドセットをデザインし、アプリと組み合わせたビジネスモデルも構想している。

嶋田 PT【情報アーキテクチャ専攻】

「SNS 画像投稿時のプライバシー侵害要因の  
類型化とサービス検討」

スマートフォンを使って写真を SNS に投稿する人が多くなっているが、勝手な写真投稿により不快を感じている問題が頻繁に起きている。その問題を把握するためにアンケート調査を行い、顔写真の他に行動時間や場所もプライバシー侵害の原因となることが分かった。その原因をより具体的に分析するため大量の SNS 写真投稿記事の分析を行い、プライバシー侵害の原因の分類を行った。これらを考慮して、写真を投稿する際にそのプライバシー侵害を予測するサービスを提案した。

國澤 PT【創造技術専攻】

「地域活性化に繋がる商店街のためのデザインソリューションの開発」

「港区デザイン資源活用事業」の一環として、港区の産業振興課・芝商店会と協働し、デザイン力を活用した商店街の活性化と街づくり支援策を検証し、住民、商店街、企業、行政が連携した地域コミュニティの形成のためのデザインソリューションを開発する。

1. 商店街の見える化による利用者との関係再構築の実証実験
2. 商店街と周辺企業が連携して取り組む地域防災対策の提案

小山 PT【情報アーキテクチャ専攻】

「企画から公開・普及までの効率的ソフトウェア開発の実践」

本 PT の目標は、企画から運用・普及までソフトウェア開発のすべての工程を繰り返して経験することで、メンバー各自がプログラミングからデザイン・戦略等のスキルを修得すると同時に、小規模プロジェクトで効率的にソフトウェアを開発する手法を修得することにある。本年度は、新規事業の立ち上げを想定し、スポーツ大会の管理を行う Web サイト、iPhone などの iOS 端末向けソーシャルパズル、Bluetooth を利用したソフトウェア等の開発を行った。

福田 PT【創造技術専攻】

「未来都市における次世代型飛行船 2030」

2030 年、移動は単なる手段ではなく、移動時間そのものを楽しむことができるようになる。このような時間充実を促す渡洋のための動態として、100 年前に世界中を飛び回っていた飛行船に着目した。本プロジェクトでは、エコデザインの観点からも有用な次世代型飛行船を提案する。飛行機よりもゆったりと寛ぎながら船より速く世界中を自由自在に旅する。船内・船外の人々とふれあう飛行船が、“ふれあいに満ちあふれた社会”を促す動態のひとつとなることを願う。

## 産業技術大学院大学について

公立大学法人首都大学東京が設置する公立の専門職大学院で、情報分野のスーパープレーヤーである「情報アーキテクト」を育成する「情報アーキテクチャ専攻」と感性と機能の統合デザイナーとしてイノベーションをもたらす「ものづくりアーキテクト」を育成する「創造技術専攻」の二つの専攻があります。

通常の大学院が研究者の育成を目的としているのに対して、本学では、高度な専門知識と体系化された技術ノウハウを活用して、新たな価値を創造し、産業の活性化に資する意欲と卓抜した業務遂行能力を持つ「高度専門技術者」の養成を目的としています。このため、社会人の学生が多い特徴があり、授業も平日夜間・土曜昼間開講となっています。

また、社会人など多様な経歴を持つ学生がライフスタイルに合わせた学修ができるように、クォータ制（4学期制）、講義支援システム（全ての講義がビデオ録画され、遠隔からの視聴等が可能。また、修了後 10 年間、講義の映像をインターネット経由で無料視聴できる）、長期履修制度、AIIT 単位バンク制度等の各種制度を導入しています。

## 産業技術大学院大学 PBL の画期的なポイント

- 1) 複数の学生が協力するチーム学修（5名程のグループに3名程の指導教員）
- 2) 明確な目標を掲げて1つのプロジェクトを完成させる過程を通じた学修
- 3) 机上の空論ではなく、産業界等の実社会を想定した地に足のついたテーマ選び

学生がチームとなって、プロジェクトを完成させていくことを通じて、真に役立つスキルやノウハウを身につけることができる、従来型の教育手法とは異なる画期的な教育手法です。

本学では、PBLの実施に当たって、専門職大学院に相応しい、より最新かつ実践的な教育内容とするため、産業界等の有識者を構成員とするPBL検討部会を開催し、産業界の生の声を取り入れています。

PBLは我が国において、教育実践例が未だ十分積み上がっていない教育手法であり、本学がPBL開発の先駆者としての役割を担うことが期待されています。